



# 獣害対策のポイントは「集落内の餌場を無くす」

野生獣による農作物被害が増えた原因は、狩猟者の減少、地球温暖化（降雪の減少）、耕作放棄地の増加など様々ですが、一番の原因は「無意識の餌付け」だと言われています。

農作物被害を減らすためには、一人ひとりの努力と、集落ぐるみの対策が必要です。今回は皆さんでできる獣害対策を紹介します。

## 餌付けを防ぎ動物を集落に近づけない

集落に野生獣がやってくる理由は、美味しく栄養豊富な餌があるからです。

野生獣の餌には、①食べられると人間が「困る餌」と②食べられても「困らない餌」の2種類あります。

①に対しては被害を受けないよう必死に対策を行います。②については餌になっていることすら認識せず、関心も示されません。

## 食べられても困らない餌とは…

水稲収穫後の落穂、ひこばえ（2番穂）、収穫後の芋のつる、放置された野菜くず、柿、栗など



水稲の落穂に群がるニホンザル

野生獣にとって餌の種類は関係ありません。虫に食われたキャベツや白菜の外葉も、人間にはゴミですが、野生獣には栄養豊富な野菜です。

農作物を食害しているサルは、山野での餌を中心とするサルに比べると個体数の増加率が高いので、農作物を食べさせないことが重要です。

## 対策

### 【果樹】

枝が上に伸びて収穫できない果樹が、サルの餌にならないよう低く剪定しましょう。手の届く範囲で収穫できるように仕立てることが大切です。特に、柿はサルの好物なので注意が必要です。収穫しない（できない）場合は思い切って伐採しましょう。

### 【野菜】

トタン板やネット柵、電気柵などでしっかり菜園を囲み、侵入を防止します。つる性の野菜は、柵の外に伸びないように注意しましょう。

収穫残渣は、畑に鋤き込むか、埋設してください。できなければ家庭可燃ごみとして処分しましょう。

### 【水稲】

水稲は収穫後、速やかに鋤き込みを行い、落穂を拾えないようにしましょう。専門家によると、水稲収穫後の落穂を丁寧に拾うと、1反当り50〜60kgも拾えるとの調査結果もあります。

野生獣対策では、「ちょっとくらいなら食べられても大丈夫」という考えは被害を助長します。集落が野生獣の餌場にならないよう誘因物を無くす工夫をしましょう。



## （参考）ニホンザルの繁殖



### 野生のサル

初産年齢：7～8歳程度  
 出産間隔：2～3年  
 赤ん坊の死亡率：30-50%程度

農作物を食べようになると栄養状態が良くなり、若いメスでも出産し、寿命も長くなります。



### 農作物を食害しているサル

初産年齢：4～5歳程度  
 出産間隔：毎年出産  
 赤ん坊の死亡率：20%以下

高い個体数  
 増加率

日野町有害鳥獣被害対策協議会では、集落内の誘引物等を確認する作業としています。ぜひ活用ください。



柵の設置事例

◆問い合わせ先 農林課内 日野町有害鳥獣被害対策協議会 ☎0748-52-6512